

群 教 セ	G11 - 02
	平 22.242集

中学校キャリア教育における 将来設計能力を育成する指導の工夫

－ 進路学習の体系化と、キャリア発達にかかわる能力・態度等の
統合・深化を促す「将来設計図」の作成・活用を通して －

長期研修員 山口 敏行

（研究の概要）

本研究は、中学校キャリア教育において将来設計能力を育成することを目指すものである。具体的には、まず、将来設計能力育成の視点で進路学習を体系化する。次に、体系化を踏まえ作成した「将来設計図」を2年次に活用し、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験することにより、キャリア発達にかかわる能力・態度等の統合・深化を促し、学ぶことや働くこと、将来設計等の意義を実感できるよう指導の工夫を図った。

キーワード 【キャリア教育 - 中 将来設計 進路指導 体系化 主体的活動】

主題設定の理由

TIMSS2007では、日本の子どもは「将来就きたい仕事のために理科や数学の学習をがんばろうとする気持ち」が5割程度と参加国中でも低いことが報告されている。協力校の生徒も中だるみと称される2年次には、目標がもてず、学習意欲の低下や継続的な努力からの逃避傾向が見られる。一方、群馬県教育委員会『キャリア教育を充実させるために』（H20.3）では、「児童生徒が学ぶことの意義を体得したり、社会生活や将来の職業生活における学習の必要性や自己有用感を認識したりできるようにすることが大切である」と、学ぶ意義や学習の必要性といった視点からのキャリア教育の推進を求めている。

こうした課題の解決に向け、国立教育政策研究所（以下「国研」）が示す『職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）』（以下「枠組み例」）のキャリア発達にかかわる4能力領域のうち、「将来設計能力」に着目した。適切な進路計画の立案により、将来と現在の学びとが結び付き、学ぶ意義の実感や学習意欲の向上が期待できると考えたからである。ただし、そうした効果を生む進路計画を立案するには、『キャリア教育推進の手引』（H18.11 文部科学省、以下「手引」）に「中学校での進路選択は、卒業後の進路先の的確な情報収集のもとに、将来を見通して、自己の興味・適性・能力に対する十分な理解と検討の上に、自らが納得のいくものにすることが望ましい」とあるように、他の3能力領域の内容である自己理解の深化や進路情報の定着等と関連付けることが重要であると考えられる。

そこで、本研究では、中学校3年間で育成が期待される将来設計能力にかかわる能力・態度の明確化、将来設計能力の育成に有効だと考えられる教育活動の精選と単元ごとの評価規準の設定、他の3能力領域との関連付け及び単元相互のつながりを明確にし、中学校進路学習活動としての体系化を図る。そして、以上を踏まえ作成した「将来設計図」を2年次に活用することを通し、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験することにより、様々な教育活動の中で培ってきたキャリア発達にかかわる能力・態度等を統合・深化させながら、将来設計能力を育成したいと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

中学2年生の進路学習において、キャリア諸能力の一つである将来設計能力を育成するために、3年間の進路学習を体系化し、それに基づいたキャリア発達にかかわる能力・態度を統合・深化させる「将来設計図」を作成・活用することの有効性を、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

本研究では、将来設計能力の高まりを、以下の3つの見通しに沿って見取るものとする。

- 1 生徒は、自己理解や職場体験学習での学びを深める学習を通して、自己の興味や適性、勤労観・職業観を把握し、それに基づいた選択・決定を行うことで、将来の夢や目指す職業を設定することができるであろう。
- 2 生徒は、様々なメディアや身近な大人からの情報収集を通して、将来の夢や目指す職業についての理解を深め、そこに至る道筋の選択・決定を行うことで、自己の将来を暫定的に計画することができるであろう。
- 3 生徒は、自己分析や将来に向けて必要な能力・知識を明確にすることを通して、学ぶ意義を実感し、行動目標の選択・決定を行うことで、目標の達成に向けて努力できる力が高まるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 将来設計能力について

本研究では、将来設計能力を「自己の興味・適性や勤労観・職業観を踏まえて将来の夢や目指す職業を設定し、実現までの道筋を暫定的に計画するとともに、それに基づき当面の目標を立ててその達成に向けて努力できる力」ととらえた。この、「設定する力」「計画する力」「努力できる力」は順序性を表すものでなく、それぞれの充実が将来設計能力の向上につながると考える。また、努力できる力とは「枠組み例」の「実行していく能力」に当たるものであり、実行の有無については継続的な見取りが必要となるため、本研究では、その後の努力につながる意欲・態度面の高まりを検証することとする。以下に、将来設計能力に着目した理由2点を挙げる。

一つ目は、これからのキャリア教育が、自分の進む道を自分で創造する力を重視しているからである。国研発行のパンフレット「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」には、中学校におけるキャリア教育の目標として「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が挙げられている。また、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会「第二次審議経過報告」では、従来の4領域8能力に代わる基礎的・汎用的能力の一つとして「キャリアプランニング能力」を挙げている。この能力は、「自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力」、「社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力」とされ、具体的な要素として、「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」「将来設計」などが示された。これらのことから、キャリアプランニング、すなわち将来設計能力を高めることが重要であると考えられる。

二つ目は、将来設計能力を高めることが、学習意欲の向上につながると考えるからである。学習意欲を向上させるためには、自己の将来に見通しをもたせ、学ぶ意義を実感させることが重要であり、そのためには、より確かな「将来設計」ができる力をつけることが有効だと考える。将来の夢や目標を設定し、到達までの道筋を構想する一連のプロセスを、自己理解や情報活用、意思決定等のキャリア諸能力を有機的に関連させながら行うことで、将来と現在との結び付きが強まり、より具体的な見通しがもてる。そこから学ぶ意義を実感し、自己のキャリア形成に必要な学びを明確にすることで、目標達成に向けて努力できる力を高めることができる。これらのことから、将来設計能力の育成が、中学段階の課題の一つである学習意欲の向上につながると考える。

(2) 進路学習の体系化について

中学校段階における将来設計能力育成を以下の三段階でとらえ直し、進路学習の体系化を図った。第一段階として、中学校3年間で育成が期待される将来設計能力にかかわる学年ごとの能力・態

度を明確にした(表1)。

第二段階として、各中学校において実施されることが多く、かつ単元として構成できる進路学習や啓発的体験活動の中から、将来設計能力の育成に有効だと考えられる学習活動を精選した(表2)。

そして、活動(単元)ごとに、将来設計能力が身に付いたと判断できる姿を具体的に示し、それぞれについて、A・B・Cの評価規準を設定して、生徒の変容をより客観的に把握できるようにした(表3)。

第三段階として、「手引」にある「中学校での進路選択は、卒業後の進路先の的確な情報収集のもとに、将来を見通して、自己の興味・適性・能力に対する十分な理解と検討の上に、自らが納得のいくものにするのが望ましい」との考え方を踏まえ、各単元ごとに、他の3能力領域に関してはどのような力を身に付けることができるのかを整理して示した(表3)。また、将来設計能力育成の視点で、単元どうしの学年間、学年内のつながりを明確にし、発展性や関連性を示した(表3)。

表1 将来設計能力にかかわる「具体的な能力・態度」の発達段階の整理 (第一段階)

		将来設計能力 夢や職業を思い描きながら将来の生き方や生活を考え、自分の目指すべき将来を暫定的に計画し、それに基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力できる能力					
		役割把握・認識能力			計画実行能力		
1学年	自分の役割やその進め方が分かる。	卒業後の進路をイメージしながら、希望する職業や進め方を考える。	自分の将来の生活や学習の方向性を考える。	世の中や職業の現状や変化を認識し、自分の役割や進め方を考える。	職業や職業観を認識し、自分の役割や進め方を考える。	将来の夢や職業を思い描き、自分にとっての目標や進め方を考える。	自分の目標や進め方を立て、実行する。
2学年	よりよい集団活動のための役割や進め方が分かる。	将来の生活や学習の方向性を考える。	自分の将来の生活や学習の方向性を考える。	世の中や職業の現状や変化を認識し、自分の役割や進め方を考える。	職業や職業観を認識し、自分の役割や進め方を考える。	将来の夢や職業を思い描き、自分にとっての目標や進め方を考える。	自分の目標や進め方を立て、実行する。

表2 精選した学習活動

1学年	2学年	3学年
宿泊体験 ボランティア体験 (調査研究活動) 自分探し 職業調べ	職場体験学習 将来設計学習 上級学校調べ 調査研究活動	修学旅行 進路ガイダンス 上級学校訪問 調査研究活動 進路計画・相談 ボランティア活動

表3 単元ごとの評価規準と、他の能力領域及び単元相互の系統性の整理 (第二・三段階)

将来設計能力育成の視点から見たキャリア学習に関する、評価規準と、他の3能力領域および単元相互の系統性			
学習活動及び関連するキャリア発達課題	将来設計能力におけるめざすべき生徒の姿(評価規準・基準) 白抜き丸数字は「具体的な能力・態度」の記載順を示し、一部修正を加えたもの。	他の能力領域で学習にかかわる能力・態度 丸数字は「具体的な能力・態度」の記載順	学習活動間の系統性 縦系統を発展性、横系統をつなぐ
2学年 将来設計学習 ・進路設計 ・三者面談 将来への夢を達成する上で現実の問題に直面し、模索する。	【役割把握・認識】 ①「将来設計図」の作成を通して、現在の生活や学習と、将来の生き方との結び付きが分かる。 ・A...将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、将来の夢や職業と関連させながら、自分の言葉で表現する。 ・B...将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、自分の言葉で表現する。 ・C...学ぶ意義が見出せない。 ②自分なりの勤労観・職業観を基に、将来の自分の夢や職業及び生活(ライフスタイル)等について考える。 ・A...勤労観や職業観を基に、働くことの意義について職業を通して果たす役割やその意味と結び付けて自分の言葉で表現でき、前向きに将来の生き方を考えようとしている。 ・B...勤労観や職業観を基に、働くことの意義について自分の言葉で表現でき、将来の生き方を考えようとしている。 ・C...勤労観や職業観の構築が不十分で、考えが表現できない。	【情報収集・探索】 生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 【職業理解】 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さが理解できる。 【選択】 ②自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択を行おうとしている。	【発展性】 自分さがし(1年) 本単元 進路計画・相談(3年) 【関連性】 本単元 上級学校調べ 調査追究活動(環境)

(3) 「将来設計図」について

「将来設計図」とは、将来の夢やキャリア発達の道筋、現在の行動目標などを一覧できる形にした進路計画書のことである。その立案に当たり、社会人対象のキャリアカウンセリングで用いられる「キャリアプランニングプロセス」(図1)を参考にした。これは、キャリア設計の際にキャリアカウンセラー等が用いる、方向性を決定するための行動のしかたを表す7つのステップのことである。このうち主に②～⑤の過程を踏ませることで、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験するとともに、これまで培ってきたキャリア発達にかかわる能力・態度の統合・深化、将来への見通しの獲得をねらっている。

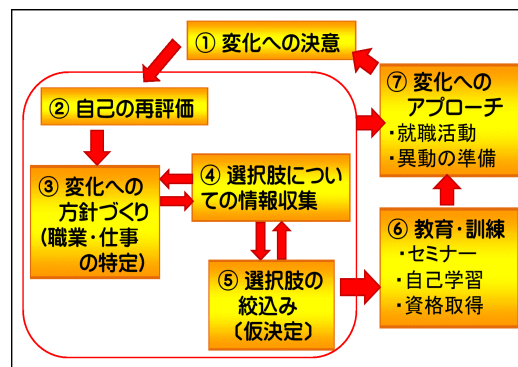


図1 キャリアプランニングプロセス

将来設計図は、3枚のワークシート（以下「プランニングシート」と称する）から成り、将来・道筋・現在の各シートを、時系列につなげることで完成する（図2）。プランニングシートを活用して、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験することで、夢や職業を設定する力、そこに至る道筋を計画する力、具体的な行動目標を決定し目標達成に向かって努力できる力を高められると考える。

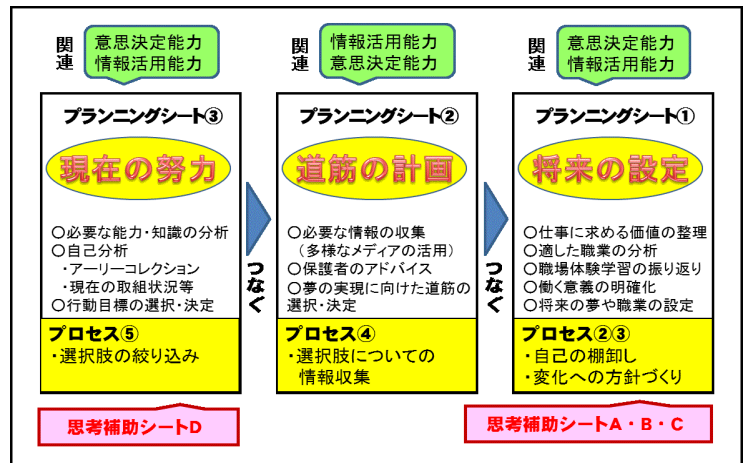


図2 3枚のプランニングシートと4枚の思考補助シート

この他に、「思考補助シート」を4枚活用する（図2）。プランニングシートに記入する自分の考えや価値観等を整理したり、分析したりするのを助ける役目を持ち、補助資料や思考を深めるための手順等を示した。主体的なキャリア形成の過程において重視される「自己の棚卸し」「変化への方針づくり」において3枚の思考補助シートを、夢の実現に必要な能力・知識を選び出して現在の行動目標を決定する「選択肢の絞り込み」の過程で1枚を用いることとする。

なお、本研究の学習単元である将来設計学習は、体系化した進路指導のカリキュラム（前項）に基づいて作成したものであり、単元「自分探し」（1年時）の発展学習として、また、単元「進路選択」（3年時）の基礎学習として位置付けられる。

2 研究構想図



研究の計画と方法

1 研究授業実践の概要

対象	研究協力校 中学校第2学年 90名
実践期間	平成22年9月24日～11月1日 7時間 (50分授業×7回)
単元名	「自分の将来を設計しよう」(特別活動・総合的な学習の時間・道徳)
単元の目標	自己の興味や適性、勤労観・職業観を把握し、それに基づいて、将来の夢や目指す職業を設定する。 様々なメディアや身近な大人から情報を収集し、それに基づいて、将来の夢や目指す職業についての理解を深め、そこに至る道筋を暫定的に計画する。 自己分析や将来に必要な能力・知識の洗い出しを行い、それに基づいて、学ぶ意義の実感や行動目標の選択・決定をし、目標達成に向けて努力できる力を高める。

2 検証計画

研究仮説	検証の観点	検証の方法	処理・解釈
中学校3年間の進路学習を体系化し、キャリア発達にかかわる能力・態度を統合・深化させる将来設計図を作成・活用することにより、将来設計能力を育成することができるであろう。	中学2年生の進路学習において、「将来設計能力」を育成するために、将来設計図を作成・活用することの有効性について、以下の観点から検証する。	事前アンケート	手だて投入前後の生徒の変容の確認(アンケート)
	観点1：自己理解や職場体験学習での学びを深める学習を通して、自己の興味や適性、勤労観・職業観を把握し、それに基づいた選択・決定を行うことで、将来の夢や目指す職業を設定することができたか。	プランニングシート への記述	プランニングシートへの記述内容の分析
	観点2：様々なメディアや身近な大人からの情報収集を通して、将来の夢や目指す職業についての理解を深め、そこに至る道筋の選択・決定を行うことで、自己の将来を暫定的に計画することができたか。	プランニングシート への記述	思考補助シートへの記述内容の分析
	観点3：自己分析や将来に向けて必要な能力・知識を明確にすることを通して、学ぶ意義を実感し、行動目標の選択・決定を行うことで、目標の達成に向けて努力できる能力が高まったか。	プランニングシート への記述 事後アンケート	学習シートと事後アンケートへの記述内容の比較分析 三者面談を終えた段階での担任教諭への事後アンケート

3 単元の指導計画

(注) 評価規準の丸数字は「枠組み例」の「具体的な能力・態度」の記載順を示し、白抜き丸数字は「枠組み例」を参考に修正を加えたことを示す。

過程	ねらい、学習活動、支援上の留意点	資料	評価規準
見通し1	「自分の興味や能力(適性)を知ろう」 特活 自己の価値観や適性に基づいて、より自分に適した職業(将来の夢)を見付けようとしている。 「大事にしたいものランキング」で、自分の価値観を知る。 思考補助シートAを使い、教師の用意した14枚のカードを使い、全体で手順を確認した後、個々で作業をさせる。 結果をランキング形式でワークシートにまとめさせた後、選んだ理由とともに発表させる。 興味や適性を分析し、自分に合った職業について考える。 職業適性を測るための質問に答え、集計結果を「RIASEC」の6観点からグラフ化することで、自己の適性を把握しやすくする。 診断結果と自分の認識を結び付けて、「適した職業」について考えをまとめる。 「自分さがし」「職業調べ」の学習と結び付け、結果を比較させる。 「人はなぜ働くのだろうか」 道徳 (内容項目1-(4)) 職場体験での学びを振り返ったり、職業人のモデルに触れたりすることを通して、仕事に対する「やりがい」を考え、そこから働くことの意義や目的について自分の言葉で表現する。 職場体験学習で感じたことを振り返り、まとめる。 思考補助シートBを使い、体験学習用のワークシートに書かれていることを基に、今の自分の考えも併せて、まとめるよう指示する。 『在校生へのメッセージ』(文部省 道徳教育推進指導資料5)を題材にして、勤労観(職業観)についてまとめる。 仕事に対する「やりがい」や「大切にしていること」という視点で考えさせ、全体での意見交流を踏まえてまとめる。 「将来の夢や目指す職業を設定しよう」 総合 自己の勤労観・職業観を基に、将来の夢や目指す職業を設定し、設定理由を自分の言葉で表現する。	思考補助シートA B C ・ プラン	①自分なりの勤労観・職業観を基に、将来の自分の夢や職業及び生活(ライフスタイル)等について考える。 ・A...勤労観や職業観を基に、働くことの意義について、職業を通して果たす役割やその意味と結び付けて自分の言葉で表現でき、前向きに将来の生き方を考えようとしている。 ・B...勤労観や職業観を基に、働くことの意義について、自分の言葉で表現でき、将来の生き方を考えようとしている。 ・C...勤労観や職業観の構築が不十分で、自分の考えが表現できない。 【選択】 ②自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択を行おうとしている。

方針づくり	<p>世論や身近な大人の考え方から、勤労観・職業観を問い直す。思考補助シートCを使い、「はたらく意義」についてのアンケート結果、ひきこもりの実情に関する新聞記事、を示すことで、現実の厳しさや職業選択の難しさについて、アンケート結果や新聞記事に表れた回答に沿って、教師が補足をして説明する。</p> <p>身近な友人の意見を聞き、自分に適した職業を再考する。客観的な適性検査の結果等にとらわれず、友人としての主観的な見方を重視させる。</p> <p>付箋を用いて、互いにアドバイスをし合う。</p> <p>将来の夢や目指す職業を設定し、なぜそう考えるのか、理由を自分の言葉で表現する。</p> <p>考えることができている生徒数名に発表をさせ、それを聞くことで自分の考え方をさらに見直せるようにする。</p>	ニングシート	
見通し2 情報収集	<p>「夢へのアプローチ()」 特活</p> <p>夢の実現に向かって道筋を立てる方法が分かり、必要な情報を様々なメディアを活用して収集することができる。</p> <p>進路計画を立てる方法を理解する。</p> <p>プランニングシート の使い方や調べるポイント等を、プレゼンテーションソフトを用いて、説明する。〔PC教室〕</p> <p>必要な情報を収集し、進路計画を立てる。</p> <p>職業情報検索サイト「CAREER MATRIX」(独立行政法人 労働政策研究・研修機構)の『職業ギャラリー』を活用して、自分の夢に向かう道筋を調べさせる。</p> <p>保護者など身近な大人に自分の夢や進路計画を見てもらい、アドバイスをもらったり、意見を交流したりすることを通して、見方・考え方を広げさせる。</p> <hr/> <p>「夢へのアプローチ()」 総合</p> <p>夢に向かって道筋を立てるために必要な情報を様々なメディアを活用して収集することができる。</p> <p>必要な情報を収集し、進路計画を立てる。</p> <p>図書室・書籍・新聞や雑誌の閲覧、(担任)教師・助言や参考意見、インターネット・サイトの閲覧など、多様なメディアを用いて調べたことを勧める。</p> <p>用いたいメディアが利用できる教室に分かれて作業を行い、必要に応じて教室を移動してよいこととする。</p> <p>授業後に、プランニングシート への記入に不備がある生徒については、放課後に施設を開放し、調査を続けさせる。</p>	プランニングシート	<p>⑩進路計画を立てる意義や方法がわかり、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A...自分の適性や職業観を基に将来の夢や職業を設定し、現在からそこまでの道筋を示した具体的な「将来設計図」を作成するとともに、進路計画を立てる意義に気付く。 ・ B...自分の適性や職業観を基に将来の夢や職業を設定し、現在からそこまでの道筋を示した具体的な「将来設計図」を前向きに作成する。 ・ C...進路計画を立てる方法が分からない、または「将来設計図」が完成できない。 <p>【情報収集・探索】</p> <p>生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。</p>
見通し3 絞り込み	<p>「今の自分にできること()」 道徳 (内容項目2-(5))</p> <p>自己分析を通して、今後の自分に必要な学びに気付く。</p> <p>友だちと意見交流しながら、将来に向けて必要な「今の学び」を確認する。</p> <p>思考補助シートDを活用して、「夢の実現に必要な能力や知識」という視点で、考えられるだけ挙げさせる。(資格・検定、趣味・特技、日頃心がけていることなども含む)</p> <p>4～5名のグループ内(机の移動はなし)で、互いの思考補助シートDを回覧し、追加や助言等を所定の欄に記入させる。</p> <p>友人の意見を参考に、「夢の実現に必要な能力や知識」に追加をしたり、修正したりする。</p> <hr/> <p>「今の自分にできること」 特活</p> <p>「将来設計図」の作成を通して、学ぶ意義や学びの必要性に気付き、当面の努力目標を設定する。</p> <p>次のステップに進むために必要な努力点を、具体的にまとめる。</p> <p>プランニングシート を活用し、</p> <p>(1)重視する能力や知識を三つ以内に絞る。</p> <p>(2)「必要な能力や知識」を大まかな目標として設定する。</p> <p>(3)具体的な行動目標を設定する。</p> <p>の順で考えることを、例を用いて説明する。</p> <p>今の学びに対して努力する意義を、自分の言葉で表現する。</p> <p>書けない生徒には、自己表現の大切さを伝え、個別に支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢に向かう今の自分の意気込みを言葉にするよう促す。 ・プランニングシート の将来の夢を再確認させ、自分は今、何をすべきで、そうすることに、どんな価値があるのか考えさせる。 	思考補助シートD・プランニングシート	<p>⑩「将来設計図」の作成を通して、現在の生活や学習と、将来の生き方との結び付きが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A...将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、将来の夢や職業と関連させながら、自分の言葉で表現する。 ・ B...将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、自分の言葉で表現する。 ・ C...学ぶ意義が見出せない。 <p>⑪「将来設計図」に基づいて、当面の努力目標を決め、その達成に向けて努力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A...「将来設計図」をもとに、長期(必要な能力)・短期(具体的な目標)両方の努力目標を立て、達成のための具体的な方法を考えて努力できている。 ・ B...中学2年生から就職するまでの進路計画をもとに、長期(必要な能力)・短期(具体的な目標)の努力目標を立て、達成のために努力しようとしている。 ・ C...努力目標が立てられない。
	<p>教育相談(三者面談)</p> <p>「将来設計図」を資料として、生徒・担任・保護者の三者で自己の進路希望について話し合い、今後の努力点や努力の方法を確認する。</p> <p>基本的には肯定的な言葉かけや共感的な姿勢を見せ、生徒が自己肯定感や自己有用感を感じられるように留意する。</p>	将来設計図	<p>【職業理解】</p> <p>将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さが理解できる。</p>

研究の結果と考察

1 生徒は、自己理解や職場体験学習での学びを深める学習を通して、自分の興味や適性、勤労観・職業観を把握し、それに基づいた選択・決定を行うことで、将来の夢や目指す職業を設定することができたか。

(1) 自分の興味や適性、勤労観・職業観の把握について

第1～3時は、自己理解にかかわる興味や適性、勤労観・職業観の把握を行った。

興味や適性の把握について、事後の「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は、「興味」の把握が93.9%、「適性」の把握が91.3%であり、おおむね達成できたことが分かる(表4)。「あてはまる」に着目すると、「興味」が約3倍、「適性」が11倍以上と、興味や適性を明確に把握できた生徒が大幅に増加した。

「勤労観・職業観」については、「仕事をする際に大切にしたいこと」について事前と事後を比較した。挙げられた項目を量的に見ると、1人平均1.2項目 2.6項目と2倍超に増えている。また、

同一生徒の比較から、「人の役に立つ」「達成感を得る」のように、価値観の広がりや深まりといった質的な変容も見られた(表5)。

(2) 将来の夢や目指す職業の設定について

目指す夢や職業の設定について、事後に約9割の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、特に「あてはまる」で、事前26.8% 事後53.1%と約2倍に増加している(図3)。これは、将来の夢がもてたというだけでなく、漠然としていた将来像を明確にできた生徒の増加を示している。

(3) 変容の要因

自己理解を促す学習活動

表6から、興味や適性、勤労観・職業観を把握する活動が、有効だったことが見取れる。思考補助シートを用いて、自己の職業適性を分析したり、仕事に求める価値を把握したりしたことが、具体的に客観的な自己理解につながったと考える。

また、友人からの助言により、自己肯定感の獲得や意見交流の活発化が見られ、夢や職業の自己決定を後押しする効果が認められた。

適した職業を見つける方法の理解

「適した職業を見つける方法が分かる」について、事後で9割以上が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。また、表7より、明確に将来の設定ができた生徒ほど、適職を見つける方法の理解も深かったことが分かる。

具体的には、思考補助シートを活用した興味・適性・価値観についての分析の結果を、プランニングシートの中で段階を追って関連付け、自己に適した職業を設定するまでの流れを示したことが、有効であったと考える。

表4 興味・適性の把握に関する生徒の自己評価

	自己評価	事前(%)	事後(%)
興味	あてはまる	20.7	59.3
	ややあてはまる	57.3	34.6
適性	あてはまる	3.7	43.2
	ややあてはまる	37.8	48.1

表5 興味・適性の把握に関する生徒の自己評価

【「仕事に求める価値」についての生徒の回答 - プランニングシート より】	
・生徒A(前)個性が発揮できる (後)やりがいを得る、多くの人と交流できる、お金を稼ぐ。	
・生徒B(前)興味ももてる (後)人の役に立つ、達成感を得る、お金を稼ぐ。	
・生徒C(前)人との関わり (後)能力を発揮する、人の役に立つ、自分らしく生きる。	

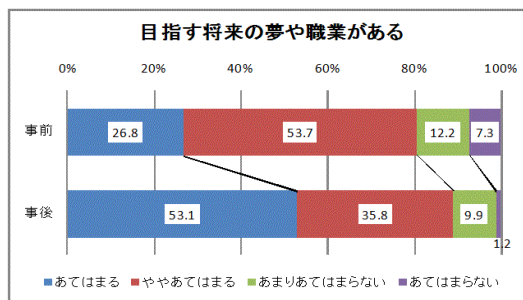


図3 将来の夢や仕事に関する生徒の自己評

表6 検証の観点1にかかわる生徒の自己評価

事後アンケートによる、生徒の自己評価	
自分にとって有効だった活動 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・適性調べと、適した職業の分析………91.4% ○適性や適職に関する、友人からの助言………90.1% ○仕事に求める価値(勤労観・職業観)の整理…72.8%
観点1に関する、生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ○将来自分がなりたい職業が決まってよかったです。自分には何が向いているのか、色々知ることができました。 ○自分の適性や、大切にしたいことなどが分かってよかった。職業をパソコンで調べて見つけるのがおもしろかった。友だちからアドバイスをもらって自信がつき、がんばろうと思った。 ○最初は、将来の夢が1つもなかったけど、この学習をして興味のある仕事をいくつか見つけることができました。自分に合った仕事が見つかりました。

表7 適職探しの方法に関する生徒の自己評価

自己評価「目指す将来の夢や職業がある」(図3、事後)	自己評価「適した職業を見つける方法の理解」(事前 事後)
「あてはまる」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 2.31 3.69
「ややあてはまる」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 1.85 3.23
「あまりあてはまらない」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 2.00 2.88

2 生徒は、様々なメディアや身近な大人からの情報収集を通して、将来の夢や目指す職業についての理解を深め、そこに至る道筋の選択・決定を行うことで、自己の将来を暫定的に計画することができた。

(1) 将来の夢や目指す職業についての理解と、そこに至る道筋の選択・決定について

第4・5時は、設定した将来の夢や職業の内容と、そこに至るまでの道筋について調べる活動を行った。

表8は、「目指す職業の内容」や「そこに至る道筋」の理解についてのアンケート結果である。両者に共通しているのは、事後に、「あてはまる」と回答した割合が大幅に増加したことである。「内容」の理解については約7倍に、「道筋」の理解については約5倍に増えた。これは、夢や職業について漠然としていた知識や理解が、学習を通してより明確になり、それに基づいた道筋の選択・決定ができたことを示している。

表8 目指す職業の内容と、そこに至る道筋の理解に関する生徒の自己評価

	自己評価	事前(%)	事後(%)
内容	あてはまる	11.8	81.5
	ややあてはまる	67.6	16.0
道筋	あてはまる	10.3	53.1
	ややあてはまる	42.6	34.6

(2) 将来の暫定的な計画について

プランニングシートへの記述より、生徒全員が、設定した夢や職業の内容及びそこに至る道筋について調べ、まとめることができ、卒業から就職までの自己の将来を暫定的に計画できた。

(3) 変容の要因

様々なメディアの活用や身近な大人からの助言

インターネット上の職業情報検索サイトの活用について9割以上が「楽しかった」、6割以上が「ためになった」と回答しており、表9からも、その有効性や将来を計画できたことへの満足感・達成感が見取れる。身近な大人である保護者の助言については、ほぼ全家庭から回答が得られた。保護者は今回の学習をよきチャンスととらえ、自らの過去の経験と結び付けながら、自分の思いを子どもに伝えようとしている様子がうかがえる(表10)。

表9 検証の観点2にかかわる生徒の自己評価

事後アンケートによる、生徒の自己評価

観点2に関する、生徒の感想

○将来の夢について、インターネットで調べられて、とてもためになったし、おもしろかった。これから進むべき道筋が詳しく設定できたので、よかった。
○今回調べた仕事は努力次第でなれるというものでなかったけれど、道筋はちゃんとあるんだな、と安心した。
○どんな職業があるのか、就くにはどんな道筋を歩めばいいのかが分かり、仕事をするのが楽しみになった。

このように様々な情報源に触れ、有益な情報を得られたことで、生徒は、将来設計図の作成に意欲的になり、積極的な情報収集が行えたと考える。また、保護者の助言は、単に情報源の一つにとどまらず、親子の交流や相互理解を深めると共に、生徒は自己肯定感が得られ、計画の立案を後押しする力となった点でも有効であったと考える。

表10 子どもの計画についての保護者の助言

【保護者からの助言 - プランニングシートより】

・自身の夢がこんなに具体的にまとまっているとは思いませんでした。何のために働くのか、とてもよく理解できていると思います。やりたいことを仕事に選べれば、こんなにすばらしいことはないと思います。私も好きで選んだ仕事をしているので、毎日がとても充実しています。もそう思ってやっていけるよう背中を見せつつ、見守っていきたくて考えています。

・自分らしく生きる = 自分の思いを大切にもち続けるといことだと思えます。何歳になっても携わっていけるような職業という広い考え方もいいですね。まずは体力と気力！何でも食べて、何事も全力で粘り強くやるうとすることが今は大事だと思います。

調査項目やまとめ方の提示

図5の結果から、「あてはまる」が、事後に3倍以上となり、「ややあてはまる」を含めると、ほとんど全員が調べる方法について理解できたことが分かる。

これは、プランニングシートとの中で、情報収集の観点やまとめ方を提示したことが、スムーズな情報収集を促し、生徒の主体的な計画の立案に有効であったためと考える。シートでは、調べる職業の「内容や特徴」と「必要な資格や能力」という項立てをし、シートでは、至る道筋を年表形式でまとめることとした。職業と道筋のいずれにも、複数選択ができるようにしたことで、職業選択や情報収集の幅を広げ、より主体的な進路選択に向けた支援ができたと考える。

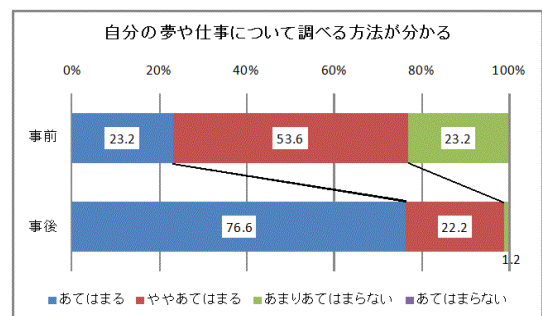


図5 調査方法の理解に関する生徒の自己評価

3 生徒は、自己分析や将来に向けて必要な能力・知識を明確にすることを通して、学ぶ意義を実感し、行動目標の選択・決定を行うことで、目標の達成に向けて努力できる力が高まった。

(1) 学ぶ意義の実感や行動目標の選択・決定について

第6・7時では、学ぶ意義の把握、現在の行動目標の決定等の活動を行った。

表11の結果より、「学ぶ意義の実感」については、事後に約9割がおおむね達成でき、そのうちの半数は、より明確に将来を見通した学ぶ意義の実感ができたことが分かる。

また、「行動目標の決定」については、事後に約9割がおおむね達成でき、特に「あてはまる」と回答した生徒が約3倍になったことから、目標を明確化できた生徒の増加が顕著であったことが分かる。

表11 学ぶ意義の実感と、行動目標の決定に関する生徒の自己評価

		自己評価	事前(%)	事後(%)
学ぶ意義の実感	あてはまる	調査未実施	19.5	50.6
	ややあてはまる			37.0
行動目標の決定	あてはまる		18.3	53.1
	ややあてはまる		46.3	39.5

(2) 目標の達成に向けて努力できる力の向上について

の1(1)で述べたとおり「努力できる力」とは、努力に向かう態度や意欲を見取るものとする。

図6の結果から、事後に、ほぼ全員が目標達成に向けて努力する意欲をもてたことが見取れる。特に「あてはまる」の回答が約3倍に増えたことは、多くの生徒が、主体的に努力しようとする気持ちへと意欲が向上した結果だと考える。

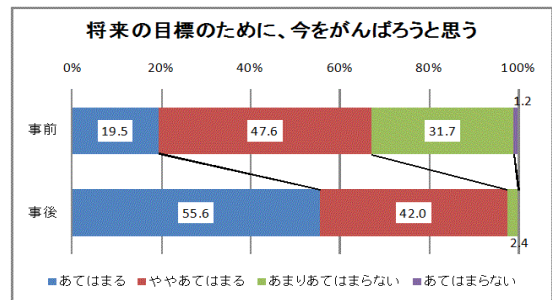


図6 目標達成に向けた意欲に関する生徒の自己評価

(3) 変容の要因

自己分析と必要な能力や知識の精選

生徒の自己評価や感想から、「自己分析」や「必要な能力や知識の精選」の活動の有効性が見取れた(表12)。思考補助シートDを活用して、将来を見通しながら自分に必要な能力等を分析し、納得のいく選択ができたことが、目標の達成に向けて努力できる力の向上に有効であったと考える。授業の中でも、生徒は自己分析の結果や、精選した能力や知識を用いて、学ぶ意義をまとめたり、行動目標の決定をしたりしていた。

表12 検証の観点3にかかわる生徒の自己評価

事後アンケートによる、生徒の自己評価	
自分にとって有効だった活動 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ○過去や現在の自分の取組を分析したこと……70.3% ○必要な能力や知識についての友人の助言……59.3% ○夢の実現に必要な能力や知識の精選……55.6%
観点3に関する、生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が将来何をしたいのか、そのために今自分が何をすればいいのかが分かって、これからがんばろうと思います。 ○今回の学習を通して、自分の足りないものに気付くことができた。この学習は自分のためにすごく役立った。 ○自分が今やること、できることがわかってよかったです。高校という目標に向けて今は勉強をがんばろうと思いました。将来自分がなりたい職業が決まってよかったです。自分には何が向いているのか、色々知ることができました。

具体的な行動目標の選択・決定

表13は、行動目標の決定と目標達成に向かう意欲との関係を示しており、これを見ると、行動目標の決定がしっかりできた生徒ほど、目標達成に向かう意欲が向上していることが分かる。プランニングシートを用いて、具体的な行動目標を選択・決定したことが、目標達成に向かう意欲の向上に有効であったと言える。

表13 行動目標の把握と達成意欲に関する生徒の自己評価

自己評価「行動目標を決定できる」(事後) (表11に一部掲載)	自己評価「将来のために今をがんばろうと思う」 (図6、事前 事後)
「あてはまる」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 2.98 3.68
「ややあてはまる」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 2.84 3.49
「あまりあてはまらない」と回答した生徒	四段階評価の結果 平均 2.67 3.17

また、プランニングシートの生徒の記述からも、夢の実現に必要な能力・知識の精選

ができたことや、目標の達成に向けた具体的な行動目標を決定できた様子がうかがえる(表14)。

表14 将来のために必要な能力・知識と現在の行動目標 - プランニングシート より

	選んだ職業	必要な能力・知識と行動目標	必要な能力・知識と行動目標	必要な能力・知識と行動目標
生徒D	物理学者	【文章をまとめる力】 毎月3冊以上、本(小説)を読む/辞書を見て様々な言葉を知る/思ったことについて普段から文を書くようにする	【英語力】 新しく習った単語、今まで習った単語、文法を3日おきに勉強する/ある程度学力がつけいたら英語の本を読む	【専門的知識】 図書館で本を借りて読む/実験器具などの名前や使い方を覚える/分からないことがあったら先生に聞く
生徒E	商社マン	【世界地理の知識/世界情勢などの知識】 社会の教科書を読み返し疑問点を調べる/世界情勢について本を読む/授業に出てきた国についてその日のうちに調べて覚える	【コミュニケーション力】 友だちとの会話でも注意してしゃべる/英語の授業で積極的に発言する/初対面の人でも積極的に話すようにする	【文章を書く力】 授業の内容を家でノートにまとめる/漢字練習を毎日1ページ以上、新出はその日のうちに復習して覚える/毎日新聞を読み、感想を書く
生徒F	洋菓子職人	【菓子についての知識/衛生管理】 家庭科の授業をしっかり受け、必要なのはメモを取る/家で積極的に菓子を作る/母から教わったことをノートにまとめる	【英語】 積極的に授業を受ける/週に1回以上は必ず発言する/授業の予習(単語)・復習を毎日する	【文章を書く力】 週に1冊は本を読む/漢字練習を毎日1ページする/授業を真剣に受け、思いついたり大切だと思ったことはノートに書く

(4) 将来設計能力の高まりについて

将来設計図を作成・活用したことで、生徒は将来設計の方法を理解し、興味・適性・価値観に基づいた将来の夢や目指す職業の設定、必要な情報の収集や至る道筋の計画、学ぶ意義の実感等を通じた目標の達成に向けて努力できる力の向上が見られ、将来設計能力を高められたと考える。

また、実践に協力してくれた他の教員の感想は表15のとおりである。生徒が自身を客観的に見つめ、漠然としていた未来像を明確にできた、キャリアプランニングの方法を理解したことで、次なる自己決定の場面でその力が発揮できる可能性を感じたといった成果や、「将来設計図」は三者面談における活用も期待でき、子どもの夢を保護者と共通理解しながら、支援していくための材料となり得る、などの回答が得られた。

このように、進路学習の体系化に基づいた「将来設計図」の活用により、他の教員による指導においても将来設計能力の伸長が認められたこと、多くの中学校で実施されている学習活動とその成果を利用したことで、汎用性も確認できたと考える。

表15 実践に協力してくれた他の教員の感想

事後アンケートによる、教員の評価

共に実践を行った教員の感想

- 将来を考えるとところから自分を振り返るまで、全体の流れの中で生徒が自然に内容を理解していくことができたように思う。これまで将来について何となくしか考えてこなかった多くの生徒にとって、自分自身を見直すきっかけにもなったのではないかと思う。
- 多様な考え方や方法があり、その一部を学んだという認識を持つことで、将来の希望が変わった際にも、今回学習した経験を活用していくことができると考える。
- 三者面談で、ほぼすべての保護者と一緒に見た。実現の可能性や日々の取組の方法などについて、シートを見ながら話せたのでよかった。

研究のまとめ

1 成果

進路学習の体系化に基づいて作成した「将来設計図」により、現在と将来との関連付けを明確にしたことと、キャリアプランニングプロセスの考え方を取り入れて、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験させたことで、将来設計能力を高められた。

今回の学習プログラムは、多くの中学校で実施されている学びや体験学習の成果を利用した実践として、汎用性があることが分かった。

将来設計能力の視点で3年間の進路学習をとらえ直し、他の能力領域と関連付けながら体系化したことは、目指す生徒像や評価規準を明確にし、単元の構築や学習活動の設定に有効であった。

2 課題

今回は、計画の立案から達成意欲の向上までを検証したが、今後は、具体的な実践や継続的な努力ができるようになることを目指して、将来設計能力の育成を継続していく必要がある。

今回は、職場体験学習の事後指導を発展させることも視野に入れ、その後の1ヶ月半の間に7時間の授業を行ったが、活動のまとめりに、年間を通して配置する方法も考えられるので、今後もより効果的なプログラムの構築を探っていく必要がある。

今回は、協力校の実態を考慮し、「将来設計能力」の視点からの体系化を行ったが、他の能力領域を中心に据えた進路学習の体系化も考えられるので、学校の実態に合わせたキャリア教育のカリキュラムを創造していく必要がある。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために』(2006)
- ・中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(第二次審議経過報告)』(2010)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育』(2009)
- ・三村 隆男 著 『キャリア教育入門』 実業之日本社(2004)
- ・悠木 そのま 著 『みんなのキャリアデザイン - なりたい自分になるために - 』 文芸社(2004)